

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 15 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	大川卓也

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

日本、京都

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

ゲノム実習および PWS 国際シンポジウムにおけるポスター発表

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 26 年 6 月 1 日 ~ 平成 26 年 6 月 9 日 (9 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

京都大学 井上英治氏

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

屋久島で採集したシカの糞からの DNA 抽出および PCR、電気泳動確認およびシーケンサーまでの全行程を行った。得た結果から班でディスカッションし、PWS 国際セミナーでポスターとして発表した。手法や結果などに関しては公開範囲なども考慮し、この場では割愛させていただく。

これから動物の遺伝子を用いて比較ゲノム分野で研究していく者として、かなり貴重な体験であった。今後の研究活動においてお世話になる偉大な方々との出会いや手法、技術など今回の実習がもたらしてくれた全ての経験にとっても感謝しています。



写真 1 シーケンサー



写真 2 国際セミナー後

6. その他 (特記事項など)

今回のゲノム実習において、特にご指導していただいた井上様、芳美様、杉浦様そして PWS スタッフの方々には厚く御礼申し上げます。